

## 5 定期便搭乗者数の推移

昭和39年7月に東京便が就航、次いで、大阪(伊丹)便(昭和54年5月)・札幌(昭和54年10月)が就航し、東京便の増便もあり、ピーク時の平成3年には約74万人の搭乗者数となった。

その後、名古屋便(平成4年4月)・大阪(関西)便(平成7年4月)・福岡便(平成8年6月)・函館便(平成10年6月：季節運航)の就航はあったものの、平成4年の山形新幹線開通の影響による東京便の減便や、福岡便の運休(平成10年4月)、大阪(関西)便(平成14年7月)の運休、名古屋便・大阪(伊丹)便・札幌便の使用機材の小型化、平成20年のリーマンショックの影響による大阪(伊丹)便の減便や札幌便・名古屋便の運休(平成22年10月)、東京便の使用機材の小型化などにより、搭乗者数は減少傾向が続き、平成23年以降の搭乗者数は11万人台で推移した。

しかし、東京便の増便・名古屋便の運航再開(平成26年3月)により搭乗者数は増加に転じた。その後、名古屋便の増便(平成28年3月)、札幌便の運航再開(平成29年3月)により、搭乗者数はさらに増加し、平成29年の搭乗者数は約29万7千人となった。

### 定期便乗降客数の推移(年次別)

